

I. 第1章 知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業の概要

第1節 当事業の目的及び本報告書について

1-1-1. 目的

知的財産を豊富に創造し、これを保護・活用することにより、わが国の経済と文化の持続的な発展を目指す「知的財産立国」の実現には、質の高い知的財産を生み出す仕組みを整え、知的財産を適切に保護し、社会全体で活用する環境整備が重要である。特に、知的創造サイクルを支える人材の育成・確保は急務であり、学校教育を通じた幼少期からの知的財産マインドの涵養、大学等の高等教育機関における知的財産に明るい人材の育成、中小・ベンチャー企業での知的財産制度に対する理解と関心の増進など、国民全体への知的財産制度に対する意識の醸成と知識の向上を図るための環境整備が重要である。

さらに、国民の知的財産意識を向上させるためには、学校教育機関において知財マインドをもった人材の育成を推進することが重要であるが、「知的財産推進計画」との関連で述べれば、これまで《知的財産推進計画第1期(2003～2005年度)、第2期(2006～2008年度)》の基本方針としては、主に権利保護に注力された。その中で、第2期の最終年にあたる平成20(2008)年度計画では、知的財産推進計画2008の第5章4.「国民の知的財産意識を向上させる」において、(1)「学校における知的財産教育を推進する」こと、(2)「地域における知的財産教育を推進する」こと、(3)知的財産の創造、保護、活用の体験教育を充実する」ことが述べられ、同じく、第5章5.(6)「専門高校における知的財産教育を推進する」においては、「工業高校や農業高校などにおける知財教育に関するこれまでの取組事例を活用するとともに、そのような取組の普及と定着を促すため、地域との連携や学校間の連携を取り入れた教育実践プログラムの開発を支援し、専門高校における知財教育を推進する」ことが述べられ、それぞれ活発に推進されてきた。

平成21(2009)年度からの《知的財産推進計画第3期》の基本方針は、知的財産をいかに経済的価値の創出に結びつけるかを重視することとされ、知財教育を推進する中で知財マインドをもった人材を育成することに関しては、第3期初年度の知的財産推進計画2009のⅡ-1-(3)-②において、

『地域における知的財産教育を推進する』(P.7)ことが謳われている。

(<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/090624/2009keikaku.pdf> 参照)

また、平成22(2010)年の知的財産推進計画2010では、今後の我が国の産業の国際競争力強化のための中枢に位置づけ、新成長戦略と連動し、科学技術政策、情報通信技術政策と一体化してスピード感を持って推進することとして、知財人材育成においても「専門学校や大学と産業界等との連携による、コンテンツ分野等の人材育成に関する枠組みモデルの構築」「専門学校や大学と産業界等の連携によるプログラム開発の拡大」「質の高い教育プログラムによるコンテンツ分野等の高度・中堅人材の重点的な養成及び専門学校や大学と産業界等の連携による教育プログラムの改善・更新」などが改善目標として掲げられている。

平成23（2011）年の知的財産推進計画2011においては、東日本大震災への対応を含め、①国際標準化のステージアップ戦略、②知財イノベーション競争戦略、③最先端デジタル・ネットワーク戦略、④クールジャパン戦略の4つを重点戦略として強力に推進するものとして、「知的財産戦略を支える人財の育成・確保」も挙げられている。

平成24（2012）年の知的財産推進計画2012においては、情勢変化と知的財産戦略の新たな挑戦、国際競争力強化に資する2つの知的財産総合戦略が打ち出され、その中でも情勢変化と知的財産戦略の新たな挑戦の中の3. 新時代に立ち向かう知的財産戦略の新たな挑戦においては、知財イノベーションのための総合戦略を協力を推進する。とし、更に最先端の知財マネジメント人財を養成する場の形成や知財マネジメント戦略研究拠点の整備を含め、新たな時代に対応する知財人財を加速的に育成・確保する「知財人財育成プラン」を強力に実行する。とされている。

一方で、国際競争力強化に資する2つの知的財産総合戦略の中では、1. ③次世代の知財人財を育成し確保する。として、国内の知的財産権の取得・維持・管理に直接的に関わる「知財専門人材」の育成と併せて、イノベーション戦略に基づきグローバルにイノベーションを創出し、国際競争力の強化に資するような形で、事業戦略に巧みに適切かつ先行的・実践的に知財を活用できる「知財活用人財（知財マネジメント人財）」にまで、知財人財の育成の重点を広げなければならないとしている。

平成25（2013）年の知的財産推進計画2013では、3. グローバル知財人財の育成・確保が上げられており、更に平成26（2014）年の知的財産推進計画2014では、6. 政府が中心となった人財育成の場の整備として、政府が主導的な役割を果たして知財人財の育成を行う場の整備を早急かつ着実に進めていくべきであるとしている。

平成27（2015）年の知的財産推進計画2015では、8. 知財人財の戦略的な育成・活用のなかで、知財教育の推進について記載されている。

平成28（2016）年の知的財産推進計画2016では、前年度に取り上げられた知財教育の推進から進展し、「知財教育タスクフォース」を設置して、社会と協働した知財教育の推進の在り方について議論を行い、今後、我が国が知財教育を推進していくに当たっての求められる方向性が3点整理された。

- ① “国民一人ひとりが知財人材”を目指した発達の段階に応じた系統的な教育の実施
- ② 社会との関わりや知識の活用を視野に入れた創造性の発展のための仕掛け
- ③ 地域・社会との協働（産学官連携による支援体制構築）の実現

平成21（2009）年3月に公示された新しい高等学校学習指導要領においては、「工業技術基礎」の科目では「知的財産権についても扱うこと」、「商品開発」の科目においては「商標権、意匠権及び著作権の意義と概要を扱うこと」、「知的財産権を取得する方法を扱うこと」、科目「農業情報処理」の「情報とモラル」では「個人のプライバシーや著作権など知的財産の保護について扱うこと」が記載される等、多くの教科・科目に知的財産関連の指導が取り入れられ、平成26（2012）年度入学生

より全面実施されている。今後、高等学校における知的財産教育を通じた知財マインドをもった人材の育成の取組みは、一層促進されると考えられる。

このような流れに先立ち、「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業（以下、「本事業」という。）の前身の事業は、平成12（2000）年度に「産業財産権標準テキストの有効活用に関する実験協力校事業」として開始された。平成12年度には工業高等学校を対象に事業が実施され、その後、高等専門学校（平成13（2001）年度から実施）、商業高等学校（平成14（2002）年度から実施）、農業高等学校（平成15（2003）年度から実施）においても順次実施された。その後、平成20（2008）年度より全国の高等学校（専門学科）及び高等専門学校における知財マインドを持った人材の育成の一層の充実を図るため、これまでの事業名称を「産業財産権標準テキストを活用した知的財産教育推進協力校事業」として実施してきた。

この平成12（2000）年度から平成22（2010）年度にかけて実施された「産業財産権標準テキスト」の活用を軸とする事業は、事業実施期間中に多くの成果・実践例を生み出し、我が国における高等学校（専門学科）及び高等専門学校における知財人材の育成（知財教育）の発展に大きな役割を果たしてきた。

そして、平成23（2011）年度からは、産業界からの人材育成に関する要望や、政府の人材育成政策に応えるため、近い将来企業等で活躍することが見込まれる「明日の産業人材」を育成する「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業」を新たに展開している。

本事業においては、知的財産権制度に関する理解を深めていく過程において生徒・学生が創作した発明・意匠・商標についてのアイデアを地域の専門家（弁理士等）とのコンサルテーションや地元企業等との連携等により知的財産としていく過程を模擬的な出願書類の作成、試作品の作成、地元企業等との連携を通じた商品の開発等、知的財産権の取得に向けて必要となる活動の体験などの実践の場を通じて知的創造力や実践力・活用力を育む取り組みを行うことを支援している。

平成26年度より、知的財産に関する創造力・実践力・活用力に関する実践的な能力を養成する取組の導入と基本的な知識の習得を目指す取組の計画を策定し、その実践を通じて組織的な取組として定着を図っていくことを目的とした「導入・定着型」と、知的財産に関する創造力・実践力・開発力開発事業において知的財産学習の組織的な推進体制ができ、すでに知的財産学習が定着し、新たな特徴ある取組にチャレンジする学校を最大3年間支援することを目的とした「展開型」の2種類のタイプによる募集を行い、平成27・28年度においても引き続き募集を行った。

平成28年度応募校の採択については、外部有識者等からなる「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業選定・評価委員会」において申請書に記載された取組やその取組を実施するにあたってのマイルストーンを確認しつつ審査を行い、「導入・定着型」として70校、「展開型」として6校（工業：3校、商業：1校、高専：2校）が採択された。

また、平成26・27・28年度に「展開型」として採択を受けた19校においては、「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業選定・評価委員会（平成28年度からは、推進委員会に変更）」へ昨年度の実績内容及び計画の進捗状況を報告し、委員会より取組内容において高評価とされる点と次年度の実績を行うにあたっての留意点等の御意見をいただいた。なお、委員会からの意見を取り入れつつ、取組を継続していく事となった。なお、平成26年度採択校（8校）に当たっては、3年間の期間満了により今年度で終了となる。

1-1-2 . 本報告書の内容

知財マインドを持った人材の育成とその取組の普及や定着を図るために、参加校における生徒又は学生が知的財産に関する知識の習得や創造力及び実践力・活用力を育む過程についてを分析するとともに、取組を通しての地域や関係機関からの支援や連携の状況の具体的な事例を収集してとりまとめを行ったものである。

各学校の実践活動は、1年間にわたる取組であり、この調査は、(1)参加校からの年間指導報告書及び(2)年次報告会時における教員・教官に対するアンケート結果等を元に作成している。

1-1-3 . 参加学校数の推移

本事業と、前身の「産業財産権標準テキストの有効活用に関する実験協力校事業」(H19年度以前)及び「産業財産権標準テキストを活用した知的財産教育推進協力校事業」(H20～22年度)も含めた参加校数(延べ数)は、下記の表およびグラフのとおりである。

表1-1-1 参加校数の推移(平成22年度以前は前身の事業)

実施年度	H15 以前	H16 2004	H17 2005	H18 2006	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	合計 (延べ数)
工業高等学校	187	54	54	44	39	23	25	34	39	48	53	48	48	39	735
商業高等学校	24	23	21	31	23	10	10	13	11	21	28	19	24	20	278
農業高等学校	7	17	22	18	13	9	6	12	10	13	13	10	15	15	180
水産高等学校	---	---	---	---	---	---	---	2	3	5	5	7	7	5	34
高等学校 合計	81	94	97	93	75	42	41	61	63	87	99	84	94	79	1227
高等専門 学校	36	15	14	13	15	17	15	19	14	13	14	16	9	10	220
全合計	96	109	111	106	90	59	56	80	77	100	113	100	103	89	1447

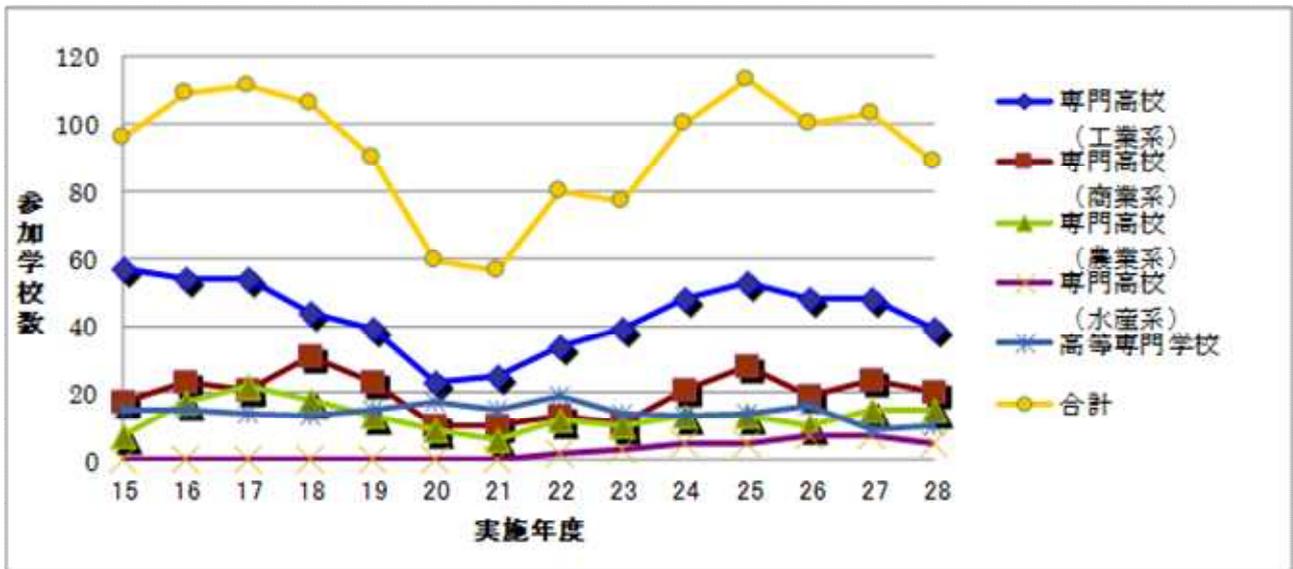


図 1 - 1 - 1 参加校数の推移 (H22 以前は前身の事業)

今年度の本事業参加校の分布を以下に示す。

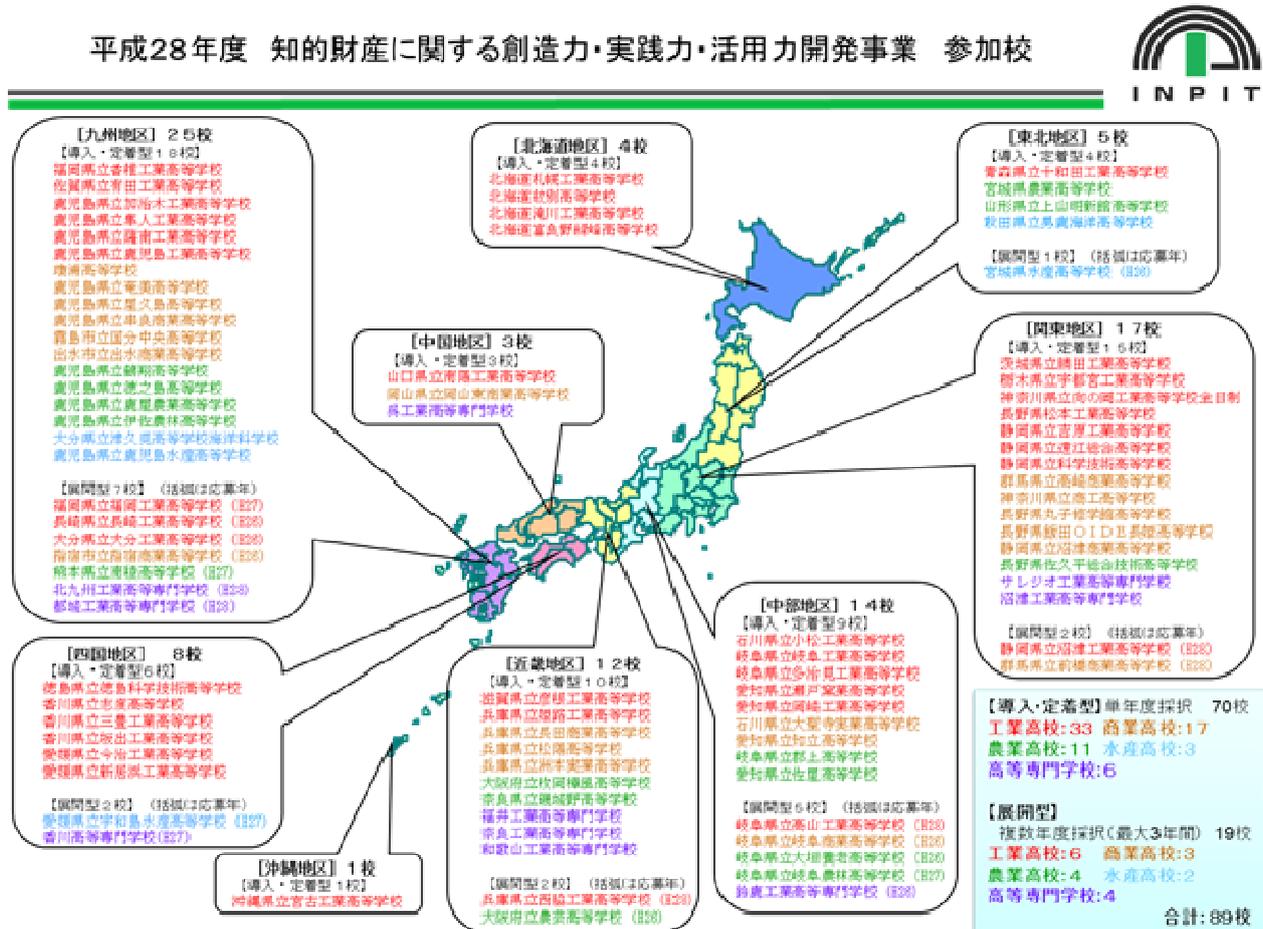


図 1 - 1 - 2 参加校の分布

第2節 平成28年度参加校の活動概要

参加校（89校）の取組内容は以下のとおり。

- (1) 予め「年間指導計画書」および「学期指導計画書」を策定し、同計画に基づき、下記項目(2)のような活動を行なった。
- (2) 知財マインドを持ち、創造力・実践力・活用力の育成に重点を置いた取り組みの内容は、各参加校においてそれぞれ策定したが、指導内容の例として次の項目が挙げられる。
 - a) 産業財産権標準テキストを用いた指導活動
 - b) 課題解決の体験（創作活動・課題研究・商品開発）
 - c) 外部講師を招聘して知的財産に関する講演会・セミナーを開催
 - d) 研究活動による創作内容に関する知的財産情報の活用、権利化への試み等、知的財産権手続に関するプロセスの体験
 - e) 知的財産の尊重、過去の科学の発展史の学習
 - f) 各地域において、地元企業・諸団体・他校と連携して、取り組みの支援を受け、また、知的財産を普及する活動
- (3) 参加校相互の連絡・情報交換の場として、さらには成果発表の場として、地域別交流・研究協議会および年次報告会を行なった。

1-2-1 . 年間活動概要

平成28年度の活動の概要は以下のとおりである。

表1-2-1 平成28年度の活動の概要

事業活動		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	採択決定書授与式・事業説明会開催	●											
2	指導計画書(年間・学期)の提出		●										
3	支出計画書(年間)の提出		●										
4	地域別交流・研究協議会開催 (経済産業局管轄地域ごとに全国8箇所で開催)				●	●							
5	中間報告用プレゼン資料の提出				●	●							
6	成果展示・発表会開催 (さんフェア石川2016内)								●				
7	(次年度参加校の公募)							●	●				
8	年間指導報告書・プレゼン資料・報告書要約書・アンケート提出									●			
9	年次報告会開催										●	●	
10	活動終了												●

1-2-2. 事業説明会

知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業の開始にあたり、学校種別を問わずに、参加校全89校を対象とし、本事業に関する説明会を開催した。

事業説明会(進行1)では、学校長および担当教員(教官)に対する特許庁 総務部企画調査課 知的財産活用企画調整官 田名部 拓也氏、文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官 瀧田 雅樹氏の挨拶が行われた。その後、独立行政法人工業所有権情報・研修館 知財人材部長 高橋 宣博による本事業の説明が行われたのち、トヨタ自動車株式会社 知的財産部 企画統括室長 飯田 陽介様による特別講演1「企業と知的財産権との関わり」がなされ、続けて株式会社アクティブ・ラーニング 代表取締役社長 羽根 拓也様による特別講演2「アクティブ・ラーニングによる指導法について」がなされた。

休憩を挟み、「展開型校としての取組と導入・定着型校へのメッセージ」と題し、モデレーターを独立行政法人工業所有権情報・研修館 知財活用支援センター センター長 奥 直也、パネリストを長崎県立長崎工業高等学校 教諭 岩田 充広氏、指宿市立指宿商業高等学校 教諭 江口 和喜代氏、岐阜県立大垣養老高等学校 教諭 中野 輝良氏としてパネルディスカッションが行われた。

その後、独立行政法人工業所有権情報・研修館 知財人材部 知財人材部長代理 岡 英範による事業に関する事務手続・経費処理等についての説明が行われたのち、独立行政法人工業所有権情報・研修館 人材開発統括監 鳥居 稔の挨拶が行われた。

更にその後の分科会(進行2)では、校種別に分かれ、昨年度に開発推進校事業に参加された教員により、実践的な開発推進校事業の取り組み活動の発表がなされた。

続く分科会(進行3)では、展開型採択校と導入・定着型新規採択校に分かれ、展開型採択校は独立行政法人工業所有権情報・研修館 知財人材部長 高橋 宣博より、導入・定着型新規採択校は北海道札幌工業高等学校 副校長 新山 雄士氏よりそれぞれ組方法等についての説明がなされた。

イ. 日時/場所/参加校内訳

日時：平成28（2016）年4月20日（水）

場所：TKP品川カンファレンスセンター（東京都港区高輪3-26-33 東急第10ビル）

参加校数：89校（参加校 全校を対象とする）

【参加校】（89校）

展開型採択校（19校）

長崎県立長崎工業高等学校

岐阜県立岐阜商業高等学校

岐阜県立大垣養老高等学校

宮城県水産高等学校

福岡県立福岡工業高等学校

熊本県立南稜高等学校

香川高等専門学校

大分県立大分工業高等学校

指宿市立指宿商業高等学校

大阪府立農芸高等学校

鈴鹿工業高等専門学校

岐阜県立岐阜農林高等学校

愛媛県立宇和島水産高等学校

静岡県立沼津工業高等学校

岐阜県立高山工業高等学校
群馬県立前橋商業高等学校
都城工業高等専門学校

兵庫県立西脇工業高等学校
北九州工業高等専門学校

導入・定着型採択校（70校）

I. 工業（33校）

北海道札幌工業高等学校
北海道滝川工業高等学校
青森県立十和田工業高等学校
栃木県立宇都宮工業高等学校
長野県松本工業高等学校
静岡県立吉原工業高等学校
石川県立小松工業高等学校
岐阜県立多治見工業高等学校
愛知県立岡崎工業高等学校
兵庫県立姫路工業高等学校
徳島県立徳島科学技術高校
香川県立坂出工業高等学校
愛媛県立新居浜工業高等学校
福岡県立香椎工業高等学校
鹿児島県立加治木工業高等学校
鹿児島県立薩南工業高等学校
沖縄県立宮古工業高等学校

北海道紋別高等学校
北海道富良野緑峰高等学校
茨城県立勝田工業高等学校
神奈川県立向の岡工業高等学校(全日制)
静岡県立遠江総合高等学校
静岡県立科学技術高等学校
岐阜県立岐阜工業高等学校
愛知県立瀬戸窯業高等学校
滋賀県立彦根工業高等学校
山口県立南陽工業高等学校
香川県立志度高等学校
香川県立三豊工業高等学校
愛媛県立今治工業高等学校
佐賀県立有田工業高等学校
鹿児島県立隼人工業高等学校
鹿児島県立鹿児島工業高等学校

II. 商業（17校）

群馬県立高崎商業高等学校
長野県丸子修学館高等学校
静岡県立沼津商業高等学校
愛知県立知立高等学校
兵庫県立長田商業高等学校
岡山県立岡山東商業高等学校
出水市立出水商業高等学校
霧島市立国分中央高等学校
鹿児島県立奄美高等学校

神奈川県立商工高等学校
長野県飯田OIDE長姫高等学校
石川県立大聖寺実業高等学校
兵庫県立松陽高等学校
兵庫県立洲本実業高等学校
瓊浦高等学校
鹿児島県立串良商業高等学校
鹿児島県立屋久島高等学校

Ⅲ. 農業（11校）

宮城県農業高等学校
長野県佐久平総合技術高等学校
愛知県立佐屋高等学校
奈良県立磯城野高等学校
鹿児島県立伊佐農林高等学校
鹿児島県立德之島高等学校

山形県立上山明新館高等学校
岐阜県立郡上高等学校
大阪府立枚岡樟風高等学校
鹿児島県立鶴翔高等学校
鹿児島県立鹿屋農業高等学校

Ⅳ. 水産（3校）

秋田県立男鹿海洋高等学校
鹿児島県立鹿児島水産高等学校

大分県立津久見高等学校海洋科学学校

Ⅴ. 高専（6校）

サレジオ工業高等専門学校
福井工業高等専門学校
和歌山工業高等専門学校

沼津工業高等専門学校
奈良工業高等専門学校
呉工業高等専門学校

図 1-2-2 事業説明会次第

平成 28 年度「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業」
事業説明会 次第



1. 日 時：平成 28 年 4 月 20 日（水） 12：00～16：50

2. 会 場：TKP品川カンファレンスセンター
（〒108-0074 東京都港区高輪 3 丁目 2 6 番 3 3 号 東急第 10 ビル）
TEL：03-5793-3571（事務所直通）

3. 進 行

進行 1：全体会 8 階 バンケットホール 8 C 12:00～13：30(90 分)

1) 開会挨拶 12:00(5 分)
(独) 工業所有権情報・研修館 理事長 三木 俊克

2) 来賓御挨拶（来賓御紹介） 12:05(15 分)
特許庁 総務部企画調査課 知的財産活用企画調整官 田名部 拓也 様
文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部
教育課程調査官 瀧田 雅樹 様
関係機関 来賓紹介

3) 「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業」事業説明 12:20 (10分)
(独) 工業所有権情報・研修館 知財人材部長 高橋 宣博

4) 特別講演 1「企業と知的財産権との関わり」 12:30 (30 分)
トヨタ自動車株式会社 知的財産部 企画統括室長 飯田 陽介 様

5) 特別講演 2「アクティブ・ラーニングによる指導法について」 13:00 (30 分)
株式会社アクティブラーニング 代表取締役社長 羽根 拓也 様

(休憩 15 分) 開始時間 13：45

6) パネルディスカッション「展開型校としての取組と導入・定着型校へのメッセージ」 13:45 (60 分)
モデレータ：奥 直也（知財活用支援センター センター長）
パネリスト：展開型校 3 年目の担当教諭
長崎県立長崎工業高等学校 教諭 岩田 充広 様
指宿市立指宿商業高等学校 教諭 江口 和喜代 様
岐阜県立大垣養老高等学校 教諭 中野 輝良 様

7) 事業に関する事務手続・経費処理等について 14:45(15 分)
(独) 工業所有権情報・研修館 知財人材部 知財人材部長代理 岡 英範

8) 人材開発統括監からの挨拶 15:00(5 分)
(独) 工業所有権情報・研修館 人材開発統括監 鳥居 稔

(休憩 15 分) 開始時間 15：20

進行2_分科会1:校種別実践事例報告

15:20~16:10(50分)

①工業高等学校 参加校からの実践事例報告及び新規校の取組方針発表 8階バンケットホール8C

発表 大分県立大分工業高等学校 教諭 佐藤 新太郎 様 (展開型校)

北海道富良野緑峰高等学校 教諭 菊地 智 様 (新規校)

進行等 講師:福岡県立福岡工業高等学校 指導教諭 木戸 健二 様

2校発表後、出席校における討議

②商業高等学校 参加校からの実践事例報告及び新規校の取組方針発表 8階バンケットホール8F

発表 岐阜県立岐阜商業高等学校 教諭 後藤 有喜 様 (展開型校)

兵庫県立洲本実業高等学校 教諭 大山 博康 様 (新規校)

進行等 講師:桐生市立商業高等学校 教諭 諸星 尚紀 様

2校発表後、出席校における討議

③農業・水産高等学校 参加校からの実践事例報告及び新規校の取組方針発表

8階カンファレンスルーム8A

発表 大阪府立農芸高等学校 教諭 烏谷 直宏 様 (展開型校)

鹿児島県立徳之島高等学校 教諭 中筋 修 様 (新規校)

進行等 講師:岐阜県立大垣養老高等学校 教諭 中野 輝良 様

2校発表後、出席校における討議

④高等専門学校 参加校からの実践事例報告及び新規校の取組方針発表 8階カンファレンスルーム8B

発表 鈴鹿工業高等専門学校 教授 横山 春喜 様 (展開型校)

奈良工業高等専門学校 教授 押田 至啓 様 (新規校)

進行等 講師:沼津工業高等専門学校 教授 大津 孝佳 様

2校発表後、出席校における討議

→ 導入・定着型で昨年に続き実施する学校(54校)につきましては、上記の事例報告の会が終了次第お帰りいただいて結構です。気をつけてお帰りください。

次に展開型校16校の担当者の方、導入・定着型での新規採択校16校の校長並びに担当者の方につきましては、この後に展開型校、導入・定着型校に分かれての説明会がございますので、ご出席方よろしくお願いたします。

(休憩10分) 開始時間16:20

進行3_分科会2:展開型採択校向け説明会 8階バンケットホール8C

16:20~16:40(20分)

説明等 (独)工業所有権情報・研修館 知財人材部長 高橋 宣博

進行3_分科会3:導入・定着型新規採択校・担当者、管理職向け説明

8階バンケットホール8F

16:20~16:40(20分)

①新規採択校(16校)が対象の説明等(対象:新規採択校 担当教員)

②学校長(管理職)が対象の説明等(対象:学校長(管理職))

説明等 北海道札幌工業高等学校 副校長 新山 雄士 様

以 上

【実施風景】



開会挨拶

(独) 工業所有権情報・研修館 理事長
三木 俊克



「知的財産に関する創造力・実践力・活用力
開発事業」事業説明

(独) 工業所有権情報・研修館 知財人材部長
高橋 宣博



特別講演1 「企業と知的財産権との関わり」

トヨタ自動車株式会社 知的財産部
企画統括室長 飯田 陽介 様



特別講演2 「アクティブ・ラーニングによる指
導法について」

株式会社アクティブラーニング代表取締役社長
羽根 拓也 様



参加校からの実践事例報告及び新規校の
取組方針発表



導入・定着型新規採択校・担当者、管理職
向け説明

1-2-3. 地域別交流・研究協議会事前調整会議

1. 実施概要

事前調整会議の実施概要を下記に記す。

ア. 概要：地域別交流・研究協議会の実施内容等について

助言方法等の研究協議

その他

イ. 日時／場所

日時：平成28年 5月22日（日） 12：00～15：00

場所：（独）工業所有権情報・研修館 地下1階会議室

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-8-1 虎の門三井ビルディング

【参加者】

	氏名	所属	役職
1	内藤 善文	愛媛県立松山工業高等学校	校長
2	満丸 浩	鹿児島県立加治木工業高等学校	校長
3	新山 雄士	北海道札幌工業高等学校	副校長
4	新居 拓司	北海道滝川工業高等学校	教頭
5	中野 輝良	岐阜県立大垣養老高等学校	教諭
6	吉田 道広	兵庫県立西脇工業高等学校	教諭
7	烏谷 直宏	大阪府立農芸高等学校	教諭
8	鈴木 康夫	愛媛県立宇和島水産高等学校	教諭
9	木戸 健二	福岡県立福岡工業高等学校	教諭
10	吉永 伸裕	佐賀県立有田工業高等学校全日制	教諭

◆独立行政法人 工業所有権情報・研修館

	氏名	所属	役職
1	鳥居 稔		人材開発統括監
2	高橋 宣博	知財人材部	部長
3	岡 英範	知財人材部	部長代理（人材育成環境整備担当）
4	中村 義正	知財人材部	主査（人材育成環境整備担当）

【次第】

平成 28 年度 知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業
地域別交流・研究協議会 事前調整会議

次 第

1. 日 時：平成 28 年 5 月 22 日（日） 12：00～15：00
2. 場 所：（独）工業所有権情報・研修館 地下 1 階会議室（虎の門三井ビルディング）
3. 議 事
 - (1) 開会挨拶 12：00～12：05（05分）
（独）工業所有権情報・研修館 知財人材部長 高橋 宣博
 - (2) 地域別交流・研究協議会について内容及び進め方について 12：05～13：05（60分）
（当日の役割分担と進め方についても確認）
 - (3) 地域別交流・研究協議会における地域担当のアドバイザーについて 13：05～13：20（15分）
（独）工業所有権情報・研修館 知財人材部長代理 岡 英範

～ 休 憩（10分） ～ （10分）
 - (4) 当日（会場配布）用アンケートについて 13：30～13：40（10分）
 - (5) これまでの開発事業全体を踏まえた意見交換 13：40～14：20（40分）
 - (6) まとめ 14：20～14：40（20分）
統括アドバイザー 愛媛県松山工業高等学校 校長 内藤 善文 氏
副統括アドバイザー 鹿児島県立加治木工業高等学校 校長 満丸 浩 氏
 - (7) 閉会挨拶 14：40～14：45（05分）
（独）工業所有権情報・研修館 人材開発統括監 鳥居 稔

1-2-4. 地域別交流・研究協議会

地域ごとに教員の皆様方による日頃の知財学習指導等についての研究・協議を行うと共に、各参加校の生徒の皆様にも可能な限り御出席いただき、各学校の知財学習の状況の発表やブレインストーミング法の実践を通して、教員及び生徒それぞれが地域間で交流を図り、それにより校種を越えた学校間連携により従来の知財学習を更に拡大していくことを狙いとして、全国8地域(8箇所)において開催した。

その開催場所・日程は次のとおりである。本事業への参加校のみならず、参加されていない学校からの参加や、指導を受けている生徒も多数参加するなど参加層も広がった。

イ. 日時/場所

- 【東北】 7月26日(火) 仙台青葉カルチャーセンター(宮城県仙台市青葉区一番町2丁目3-10)
- 【四国】 7月28日(木) 松山市立子規記念博物館(愛媛県松山市道後公園1-30)
- 【北海道】 8月1日(月) 市民活動交流センターCOCODE(北海道旭川市 宮前1条3丁目3番30号)
- 【九州】 8月4日(木) 九州ビル会議室(福岡県福岡市博多区博多駅南1-8-31)
- 【中国】 8月8日(月) 岡山コンベンションセンター 406会議室
(岡山県岡山市北区駅元町14-1 フォーラムシティビル)
- 【関東】 8月9日(火) TKP新橋カンファレンスセンター ホール4B
(東京都港区西新橋1-15-1 大手町建物田村町ビル)
- 【中部】 8月17日(水) 安保ホール 301号室(愛知県名古屋市中村区名駅3-15-9)
- 【近畿】 8月19日(金) TKP大阪本町カンファレンスセンター ホール3B
(大阪府大阪市中央区久太郎町3-5-19 大阪DICビル3F)

開催場所は各地域の中心部とし、アクセスの良い会場にて各地域1回開催した。

地域別交流・研究協議会の内容は、各学校の知財学習の状況を教員だけではなく、生徒が発表することや各地域の状況に合わせたテーマを提示したブレインストーミング法の実践を通して、教員及び生徒それぞれが地域間で交流を図り、校種を越えた学校間連携による知財学習の更なる拡大を目指すものとした。



地域別研究協議会(仙台)



地域別研究協議会(北海道)

図 1-2-4 地域別・研究協議会次第(関東)

平成 28 年度 知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業 地域別交流・研究協議会 次 第

1. 日 時：平成 28 年 8 月 9 日（火） 12：30～16：45
2. 会 場：TKP 新橋カンファレンスセンター ホール 4B
3. 議 事
 - (1) 主催者及び来賓紹介、挨拶 12：30～12：45（15分）

（独）工業所有権情報・研修館 人材開発統括監 鳥居 稔
特許庁 総務部企画調査課 課長補佐 山本 晋也 氏
文部科学省国立教育政策研究所 教育課程調査官 持田 雄一 氏
日本弁理士会 副会長 齋藤 美晴 氏
公益社団法人全国工業高等学校長協会 事務局次長 石井 末勝 氏
独立行政法人国立高等専門学校機構 研究・産学連携推進室 室長 田村 隆弘 氏
 - (2) 統括アドバイザー挨拶、他のアドバイザーの紹介 12：45～12：50（5分）

統括アドバイザー 愛媛県立松山工業高等学校 校長 内藤 善文 氏
 - (3) 参加校からの中間報告 生徒・学生発表（12校） 12：50～14：50（120分）

※途中休憩有り
～ 会場移動・休憩（10分） ～ 14：50～15：00（10分）
- 《教員・教授》
 - (5) -1 知的財産学習の進め方についての協議（意見交換） 15：00～16：20（80分）

統括アドバイザー 愛媛県立松山工業高等学校 校長 内藤 善文 氏
副統括アドバイザー 鹿児島県立加治木工業高等学校 校長 満丸 浩 氏
アドバイザー 独立行政法人国立高等専門学校機構
沼津工業高等専門学校 教授 大津 孝佳 氏
 - (5) -2 事務局からの連絡 16：20～16：25（5分）

（独）工業所有権情報・研修館 知財人材部長代理 岡 英範
- 『生徒・学生』
 - (5) 紙コップのリ・デザイン～プラスアルファで「！」をつくろう～（模擬授業） 15：00～16：25（85分）

アドバイザー 福岡県立福岡工業高等学校 教諭 木戸 健二 氏
アドバイザー 宮城県水産高等学校 教諭 油谷 弘毅 氏
アドバイザー 桐生市立商業高等学校 教諭 諸星 尚紀 氏

 - ① 事前説明（10分）
 - ② ブレインストーミング（25分）
 - ③ 紙コップへの加工（20分）
 - ④ 班別報告（20分）
 - ⑤ まとめ・講評（10分）

～ 会場移動・休憩（10分） ～ 16：25～16：35（10分）
 - (6) 産業財産権の取組の方法について 16：35～16：45（10分）

統括アドバイザー 愛媛県立松山工業高等学校 校長 内藤 善文 氏
 - (9) 閉会

1-2-5. 成果展示・発表会

平成28年11月5日・11月6日に、本事業における取組の一環として、生徒に自らの取組の成果を説明・発表する経験を積んでもらうこと、及び、本事業の取組の周知を図ることを目的に、「第26回全国産業教育フェア石川大会（さんフェア石川2016）」において、本事業参加校によるこれまでの取組の成果を発表する「成果展示・発表会」を開催しました。本年度は、事業参加校のうち22校の生徒・教員が成果展示・発表会に参加した。

開催概要

- ・ 期日：平成28年11月5日（土）～11月6日（日）
 - ・ 会場：第26回全国産業教育フェア石川大会内
展示会・発表会 石川県産業展示館2号館
 - ・ 主催：独立行政法人 工業所有権情報・研修館
 - ・ 後援：中部経済産業局、特許庁、株式会社北國新聞社
- <展示会> 11月 5日（土） 10:00 ～ 16:00
11月 6日（日） 9:30 ～ 14:30
<発表会> 11月 6日（日） 9:30 ～ 14:30

展示会 5日（土）～6日（日）

石川県産業展示館2号館において、知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業で取り組んだ知的財産学習の成果である製品・商品・試作品などや、それらの内容を説明したパネル・ポスターなどを展示します。そして、それらの創作に取り組んだ生徒が展示内容について説明を行いました。生徒達は、来場者と積極的に対話し、自身の取組のセールスポイントなどを説明しました。

発表会 6日（日）

石川県産業展示館2号館において、知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業で取り組んだ知的財産学習の成果である製品・商品・試作品などについて、これまでの参加各校の取組の成果について、生徒による成果発表（プレゼンテーション）を実施しました。生徒達は、限られた時間の中、取組の成果について、それぞれ工夫を凝らした発表を行いました。また、地元石川県の企業・団体・マスコミ及び特許庁の方々にご参加いただき、大変有意義なコメント、ご質問等をいただきながら、創造力・実践力・活用力等の観点で審査していただきました。いずれも優秀な発表で各校の実力が拮抗するなか、各観点からの優秀校1校ずつが選ばれました。更に来場者におけるアンケートのなかから来場者特別賞を、参考校の生徒による投票で優秀賞を2校選出いたしました。



展示会



発表会



- ① **青森県立十和田工業高等学校**
課題研究で取り組んだ「光るコースター」の制作について
- ② **秋田県立男鹿海洋高等学校**
地域企業と連携した新製品「鰯のオイル漬缶詰」の開発について
- ③ **宮城水産高等学校【優秀活用力賞】**
宮城を代表する水産物ホヤの販路・消費拡大のための取り組みについて
- ④ **群馬県立高崎商業高等学校**
商品開発から店舗設計まで企画した新感覚スイーツ店「ice cook」の紹介
- ⑤ **神奈川県立商工高等学校**
昨年度の印鑑を更に工夫した印鑑の開発について
- ⑥ **静岡県立沼津商業高等学校**
永く愛される商品を目指して地元特産物を使用した餃子の完成まで
- ⑦ **静岡県立沼津工業高等学校**
IoT/M2M技術を活用した無人飛行機（ドローン）による災害救助支援システムの開発
- ⑧ **石川県立大聖寺実業高等学校**
「加賀ふるさと検定」学習用アプリの作成について
- ⑨ **岐阜県立岐阜農林高等学校【優秀賞（展示）】**
地域の特産伝統食材「まくわうり」を活用した商品開発、「ますろう」ジュースのさらなる進化、自然環境を考慮した「岐阜県の稲作モデル創出」について
- ⑩ **岐阜県立岐阜工業高等学校**
進造形とビジュアルの融合をテーマにした「家具」と「映像」について
- ⑪ **岐阜県立岐阜商業高等学校**
今年2月に設立された「株式会社GIFUSHO」の新製品の開発等の取り組みについて
- ⑫ **岐阜県立大垣養老高等学校【優秀創造力賞】**
模擬企業「Bicom」で研究に取り組んでいる地元ハツシモ米を使用したパンの開発と普及活動について
- ⑬ **奈良県立磯城野高等学校**
県内の有用な漢方薬植物「大和シャクヤク」と大和野菜である「ひもとうがらし」を使った新商品の開発、販売について
- ⑭ **大阪府立農芸高等学校**
農産物の高品質栽培に向けて日々活動していく中で誕生した「農芸ポークカレー」の開発について
- ⑮ **兵庫県立西脇工業高等学校**
教育用小型コンピュータラズベリーパイを使用した相違点を判別するプログラムで、工業製品の欠陥商品の発見をする
- ⑯ **岡山県立岡山東商業高等学校【優秀賞（展示）】**
「にぎわいのある街をデザインする」をテーマに商店街の各商店のポスターを作成、また、岡山銘菓「吉備団子」を企業と提携、新しいフレーバーを持つ新商品の開発について

⑰ 愛媛県立新居浜工業高等学校

ヒラタケの菌床栽培を利用したタンパク質分解酵素の働きを体感できる教材の開発と商品化にむけての取り組みについて

⑱ 徳島県立徳島科学技術高等学校

地元企業と連携した知財創出プロジェクトで知的財産マインドを育む

⑲ 佐賀県立有田工業高等学校

太良みかん・ふるさと納税用みかん箱の制作について

⑳ 大分県立大分工業高等学校 **【来場者特別賞】**

「パイプレール走行装置」で高校生が特許取得、大分県議会史上初めて、政策提言するに至るまで

㉑ 出水市立出水商業高等学校

「インテリアとしても活用できるデザイン」をコンセプトに考え、完成させた「パイナップルコースター」「スリッパラック」「つるみんジャーぬいぐるみ」について

㉒ 鹿児島県立鶴翔高等学校 **【優秀実践力賞】**

鹿肉の消費拡大を目指して、完成させた「旨鹿（うんまか）コンフィ（加工品）」について

1-2-6. 年次報告会

【実施概要】

年次報告会の実施概要を下記に記す。

ア. 概要

平成29年1月20日に、年次報告会を次のとおり開催し、各校は実践結果について報告した。

年次報告会においては全校種合同での全体会を行い、午後からは校種ごとにグループに分かれての分科会となった。内容は各校から「年間指導報告書」に基づいて、指導実績、ものづくりや商品開発・商品販売の過程における産業財産権教育の指導内容、活動全体を総括しての成果、産業財産が身近で大切なものとして理解が深められたこと、創造する楽しさ、能力の育成が図られたこと等が、パワーポイントなどを活用して報告された。

イ. 実施期間／場所／参加校内訳

日時：平成29（2017）年1月20日（金）

場所：TKP新橋カンファレンスセンター（東京都港区 西新橋1-15-1 大手町建物田村町ビル）

参加校数：89校（参加校 全校を対象とする）



年次報告会(工業)



年次報告会(商業)

図 1-2-6 年次報告会次第

平成 28 年度「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業」
年次報告会（工業高校）
次 第

- 【日時】 平成 29 年 1 月 20 日（金） 11:00～16:30
- 【会場】 TKP 新橋カンファレンスセンター ホール 2 A
（東京都港区新橋 1-15-1 大手町建物田村町ビル）
1. 開会挨拶
独立行政法人 工業所有権情報・研修館 人材開発統括監 鳥居 稔
 2. 特許庁挨拶
特許庁 総務部企画調査課 知的財産活用企画調整官 浜岸 広明 様
 3. アドバイザー紹介、統括アドバイザー挨拶
 4. お知らせ
「産業財産権をめぐる国内外の情勢と知的財産に関する創造力・実践力・活用力
開発事業」の取り組みについて
独立行政法人工業所有権情報・研修館 知財人材部長代理 岡 英範
 5. 事務局からの連絡（会計精算手続き、午後からの年次報告会の進め方）
独立行政法人工業所有権情報・研修館 知財人材部主査 由井 義仁
 6. 休憩（昼休み）（上記終了後～13:00）
休憩後は、各校種毎に別れての分科会となります。
 7. 参加校からの年次報告（1校10分、質疑応答を含む） 13:00 開始
 8. 班別討議（40分）
 9. 休憩（15分）（この休憩の間に、ホール 2A に移動をお願いします。）
 10. グループ別発表（35分）
 11. アドバイザーからのまとめ
愛媛県立松山工業高等学校 校長 内藤 善文 様
鹿児島県立加治木工業高等学校 校長 満丸 浩 様
北海道札幌工業高等学校 副校長 新山 雄士 様
北海道滝川工業高等学校 教諭 新居 拓司 様
佐賀県立有田工業高等学校全日制 教諭 吉永 伸裕 様
兵庫県立西脇工業高等学校 教諭 吉田 道広 様
 12. 閉会

第3節 参加校の指導対象・取組内容

表1-3-1 に、参加校（工業高等学校39校、商業高等学校20校、農業・水産高等学校20校、高等専門学校10校 合計89校）の指導対象・取組内容（取組の目的・目標の要約）を記す。

表1-3-1 各校の指導対象・取組内容

工業高等学校

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
3展 工01	長崎県立 長崎工業 高等学校	全	県内工業系 全学科	工業技術基礎、 情報技術基礎、 課題研究、公開授業、 講演会、研修会	(1) 県内工業系高校生のアイデアを 特許権や意匠権につなげるシステム の維持・充実、大学や異校種の参加 拡大を図る (2) 地元の企業と連携し、アイデア 作品の製作、商品化を図る (3) 海外(とくに中国)の知的財産権 に対する考え方や動向を調べ、知財 学習の在り方について研究する
		2年	本校インテリア科	実習	
		3年	本校機械科	課題研究	
3展 工02	大分県立 大分工業 高等学校	1年	全	工業技術基礎／実習	大分県の「製造業」を「創造業」に 変革せよ！ 特許を取得した大分県 高校生の挑戦。
		3年	機械	課題研究／実習	
		全	全	発明工夫展 (パテントコンテスト)	
		全	全	部活動 (未来ロボット工学研究部)	
2展 工01	福岡県立 福岡工業 高等学校	1年	全学科	講演会	・各学科の特性を活かした実習や課 題研究、工業技術基礎などを通して 行われる知的財産学習において基 礎知識・興味関心を高めた上で創造 力を培い、実践力・活用力を企業や 地域連携活動において育む。
		1年	電子工学科	工業技術基礎／ アイデア創出	
		2年	電子工学科	ものづくり	
		3年	電子工学科	課題研究／ものづくり、起業	
		3年	染織デザイン科	課題研究／ものづくり	
		3年	環境科学科	課題研究／ものづくり	
		1年	電気工学科	工業技術基礎／ アイデア創出	
		3年	全学科	講演会	
		1～3年	全学年	募集	

1 展 工 01	静岡県立 沼津工業 高等学校	1年	全科(機械・電気・ 電子・建築・土木・ 物質工学科)	「工業技術基礎」／実習 「情報技術基礎」／座学 「デザインパテントコンテスト について」／課外授業 「知的財産に関する講演会」 ／講演	1年生「知財教育とアイデアの 創造」 2年生「インターンシップとPBL」 3年生「課題研究と知財登録」
		2年	全科	「インターンシップ」／企業連 携 「知的財産に関する講演会」 ／講演	
		3年	全科	「課題研究」／ 各科課題研究グループ	
		全学年	全科	「課題研究発表会」／集会形 式	
1 展 工 02	岐阜県立高 山工業高等 学校	1年	電子機械科	工業技術基礎／授業・実習	「飛驒の匠の技と心を継承する」高 山工業生を育成するために、ものづ くりを通じてアイデアを知的財産権 へ具体化する力を育成する。また、 優れたアイデアを産業に発展させ ることを視野に入れ、アイデア作品 を商品として開発販売する手順の研 究を行う。
			電子機械科	情報技術基礎／授業・実習	
			電気科	工業技術基礎／授業・実習	
			全学科	情報技術基礎／授業	
		2年	電子機械科	電子機械実習／実習	
			機械科	機械実習／実習	
		3年	電子機械科	電子機械実習／実習	
建築インテリア科	匠(学校設定科目)／実習				
部活動	全学科	生産系部活動／特別活動			
1 展 工 03	兵庫県立 西脇工業 高等学校	1年	情報・繊維科	工業基礎／授業・講演	地域の企業と連携して、特許権の 活用方法を紹介し、知財学習の必要 性を認識させ、ものづくりを通じた知 的創造力を育成し、知的財産権を実 践的に活用する力を育成する。ま た、PDCAサイクルを実現できる自 立型人材を育成する。
		2年	情報・繊維科	実習 / 授業・実習・講演	
		3年	情報・繊維科	課題研究／授業・実習	
		全学年	情報・繊維科	プログラミング技術／授業・ 演習	

工 01	北海道 札幌工業 高等学校	1年	建築科	工業技術基礎／座学・実習	校内における知的財産教育の円滑な導入と北海道内における知的財産教育実践校との情報連携
		2年	建築科	実習／実習	
		3年	建築科	課題研究／班別実習	
		1～3年	建築科	建築研究同好会／部活動	
工 02	北海道 紋別高等 学校	1年	電子機械科	課題研究	1. 豊かな創造力育成に重点をおいた指導の充実と定着を図る 2. ロボット製作を通して、質の高いアイデア創出とそれらを形にする過程を充実する 3. 指導担当の協力体制の拡大と指導方法を向上させる 4. 北海道内各校と連携し、知的財産学習に関わるスタンダードをつくる
		2年		実習	
		3年		課題研究	
		2～3年		ロボット研究部	
工 03	北海道 滝川工業 高等学校	3年	電気科	電気機器／座学・実習	・「ものづくり」と「知的財産」の結びつきを意識して考えさせ、社会で必要な創造力を身につける。 ・知的財産に関する興味・関心を高め、モラルやマインドを育成する。
		3年	電気科	課題研究／実習	
		3年	電気科	実習／実習	
工 04	北海道 富良野緑峰 高等学校	1年	電気システム	情報技術基礎／講義形式	発想法やアイデア創出による活動を「ものづくり」にいかし、知的財産の要素を取り入れた付加価値のある制作物を目指す。
		1年	電気システム	工業技術基礎／実習形式	
		1・2年	電気システム	課題研究／対話型授業形	
		3年	電気システム	課題研究／実習形式	
工 05	青森県立 十和田工業 高等学校	1年	電子機械科	①工業技術基礎「アイデアの発想訓練」／実習	ものづくりにおける基礎的な技能・技術の習得から発展的にものづくりができる実践力、自ら考え工夫できる創造力を身に付けることを目標として、電子機械科の授業・実習に本事業を活用し、特に知的財産権の習得に必要な知識、活動の体験を通じて「知的財産権に関する創造力・実践力・活用力」を育む礎を築く事を目的とする。
				②工業数理基礎「特許情報 J-PlatPat の使用法」／座学	
		2年	電子機械科	①電子機械実習「アイデアの発想訓練」／実習	
				②機械工作「特許情報 J-PlatPat の使用法」／座学	
3年	電子機械科	①電子機械実習・課題研究「アイデアの発想訓練」／実習			
		②機械工作「特許情報 J-PlatPat の使用法」／座学			
1～2年	電子機械科	1年工業技術基礎／実習			
		2年機械工作／座学 「知的財産権を知ろう」			

工 06	茨城県立 勝田工業 高等学校	1年	総合工学科	校内行事／知財特別講演会	1年生向け知財基礎学習特別講演会を実施し知財基礎知識を学ぶ。2年生向け知財発展学習特別講演会を実施し知財応用知識を学ぶ。3年科目「課題研究」知財研究班による知財実践活動(パテントコンテストに応募)を実施する。
		2年	総合工学科	校内行事／知財特別講演会	
		3年	総合工学科	課題研究／知財セミナー	
工 07	栃木県立 宇都宮工業 高等学校	1年	全学科	科学技術と産業／講義	<p>・知的財産権に関する理解を深め、「校内パテントコンテスト」をより活性化させ、「栃木県児童生徒発明工夫展覧会」、「パテントコンテスト」で入選できるような創造性が豊かな生徒を育成する。</p> <p>・ものづくり活動を通して創造力を生かしたものづくりが出来る生徒を育成する。</p>
		1年	全学科	科学技術と産業／校内パテントコンテスト応募	
		1年	全学科	科学技術と産業／ペーパータワーの製作	
		2・3年	全学科	課外活動／校内パテントコンテスト応募	
		全	全学科	課外活動／栃木県児童生徒発明工夫展覧会	
		2年	電子機械科	課外活動／全日本学生児童発明くふう展覧会	
		3年	機械科	課題研究／ロボットコンテスト参加	
		3年	電子機械科	課題研究／ロボットコンテスト参加	
		2年	機械科	課外活動／ロボットコンテスト参加	
		3年	電子機械科	課題研究／アマトロ봇コンテスト参加	
		2年	機械科	課外活動／アマトロ봇コンテスト参加	
		2年	建築デザイン科	課外活動／全国産業教育フェア-石川大会見学	
		2学年	電子機械科	課外活動／小中学生ものづくり対象教室	

工 08	神奈川県立 向の岡工業 高等学校 全日制	全	全科	ものづくり講演会	「ものづくり」を通して知的財産の知識を身につけこれを活用できる人材の育成を図る。
		3年	全科	課題研究	
		電気科 1年	電気科	情報技術基礎	
		電気科 2,3年	電気科	実習	
		放送部、 機械 研究部	全科	部活動	
		テクノ ファクトリ ー	全科	有志	
工 09	長野県 松本工業 高等学校	1年	全学科	LHR／講演会	知的財産教育の導入を行い、知的財産への関心や知識を深め各種コンテストへの応募。 ものづくりを体験させ、アイデアの創出を行う。
			機械科	LHR／講義	
		3年	機械科	課題研究／講義 課題研究／調査研究	
		1～3年	全学科	LHR／講演会	
工 10	静岡県立 遠江総合 高等学校	3年	電子情報系列	課題研究	目的：「ものづくり」とおして知的財産マインドを定着させると共に、生徒たちに社会に必要な問題解決力、チームワーク力などのスキルを身に付ける。また、災害時に必要となる炊き出し小屋や発電装置など「ものづくり」で学んだ経験を活かし、将来、地域社会の一員として、地域に貢献する意識を高める。
		3年	機械技術系列	課題研究	
		3年	3年4組	HR活動	
		2年	電子情報系列	電気基礎/グループワーク	目標：本活動とおして、知的財産権の基礎を理解させ、機械と電気が連携して災害時に必要な食事や電気などを確保できる炊き出し小屋と発電装置を製作する。
		2年	機械技術系列 電子情報系列	工業管理技術/グループワーク	

工 11	静岡県立 吉原工業 高等学校	1年	全学科	工業技術基礎	知的財産権の認識度を深めるとともに、ものづくりを通し創造性や問題解決能力の向上を図る。
			電子機械科	課題研究	
		3年	電気科	課題研究	
		3年	電子科	課題研究	
		3年	システム化学科	課題研究	
		3年	数理工学科	課題研究	
工 12	静岡県立 科学技術 高等学校	1年	物質工学	工業技術基礎／授業	○アイデア創出からそのアイデアを知的財産として獲得していく過程を3学年段階的に生徒に体験させる機会を提供する。 ○製作・実験を通して、創出アイデアを権利化・活用する過程を学習する。 ○パテントコンテストを通して、知的財産マインドを醸成する。
		2年	物質工学	知的財産概要／授業	
		3年	物質・理工科	課題研究・探究／授業	
		全	全学科	パテントコンテスト／参加	
工 13	石川県立 小松工業 高等学校	1年	機械	工業技術基礎／実習	知的財産教育を活用したものづくり実践を通した創造性の育成。 学校全体での知財教育活動となる実践。
			材料化学	工業技術基礎／実習	
		3年	機械	課題研究／実習	
			電気	課題研究／実習	
工 14	岐阜県立 岐阜工業 高等学校	3年	設備システム	課題研究 / 一斉	知的財産の共有化で得られる知的財産学習の広がりや、同学習に当たり高い学習効果を得られる。今期はプロジェクションマッピングで得られた技術を他学科の生徒が自らの作品のプレゼンテーションに利用し、プレゼンテーションの質の向上に貢献した。更に多くの開発した技術・教材の情報を共有化し新たなアイデアの誘発をねらいとした。
		3年	建設工学	課題研究 / 一斉	
		3年	デザイン工学	製図 / 一斉	
		1年	デザイン工学	情報技術基礎 / 一斉	
工 15	岐阜県立 多治見工業 高等学校	1年	セラミック科	「工業技術基礎」「情報技術基」 ／座学、実習	主に5つの取組(表1)を通して、教員と生徒の知的財産についての意識を上げるとともに理解を深める。また、地域と連携し知的財産の活用力を身に付ける。
		全	セラミック科	「セラミック実習」/座学、実習	
		1年	セラミック科	「セラミック実習」/座学、実習	
		3年	セラミック科	「課題研究」/実習	
		3年	セラミック科	「課題研究」/実習	

工 16	愛知県立 瀬戸窯業 高等学校	1年	全科	LT／講話・課題	常識にとらわれない発想力を身につける。
		2年	全科	LT／講話・課題	
工 17	愛知県立 岡崎工業 高等学校	1年	全科	情報技術基礎／座学	1)学校設定科目「工業デザイン」を通してデザインパテントコンテストに応募したい。 2)課題研究のテーマ「コンテナ壁画」「3Dプリンタによるものづくり」などで、意匠や商標への取組を通して創意工夫を重ね創造性を育成したい。 3)学校全科で知的財産教育を推進したい
		2年	機械デザイン科	実習	
		3年	機械デザイン科	工業デザイン／座学・演習	
		3年	機械デザイン科	課題研究	
		3年	機械科	機械生産部／部活動	
工 18	滋賀県立 彦根工業 高等学校	3年	建設科	課題研究	住民が参画できる防災活動として地域に提案できるようにする。その際、材料やデザイン、施工法、説明書を工夫するなかで創造性を開発する。
		3年	電気科	課題研究	
		2年	建設科	建設実習	
工 19	兵庫県立 姫路工業 高等学校	3年	電子機械科	課題研究／実習	知的財産教育を通して「ひとづくり」を推進し、より良い「ものづくり」へつなげる。
		3年	デザイン科	課題研究／実習	
		1～3年	電子機械研究 同好会	部活動	
		1年	全学科	工業技術基礎／実習	
工 20	山口県立 南陽工業 高等学校	1～3年	機械システム科 電気科 応用化学科	科学研究部／部活動	省エネルギーを追究するものづくりを主題とし、性能向上の技術や製作方法において独自のアイデアを発想・発案する力を身に付ける。
		3年	機械システム科	課題研究／授業	
工 21	徳島県立 徳島科学 技術高校	3年	情報通信コース	課題研究	考案したアイデアをもとに実物を製作し、ものづくりを通じて知的財産権を学ぶ
		2年	総合デザイン コース	課題研究、実習、 デザイン技術	
工 22	香川県立 志度高等 学校	全	電子機械科	工業技術基礎、原動機、 課題研究	技能検定「構造物鉄工」や JIS 溶接技能試験、溶接コンクール、パテントコンテスト、ものづくりコンテスト(溶接作業部門)、ロボット競技会等への取り組みを通して、学校生活で役に立つアイデア作品の製作・改善・発明を生徒自らできるようにし、知的財産に関する創造力・実践力・活用力を深める
		全	電子機械科・ 情報科学科	ロボット研究部	

工 23	香川県立 坂出工業 高等学校	1年	全科	工業技術基礎	学校全体で体系的な知財教育を進めるため、新たに2年次に、知的財産に関する出前授業または発明工作授業を実施することで、一層の問題の解決方法や探求活動に主体的、創造的に取り組む姿勢を身につけさせる。
		2年	機械科	特別授業	
		3年	全科	課題研究	
		全学年	全科	始業前の知財学習	
		全学年	全科	知的財産講演会	
工 24	香川県立 三豊工業 高等学校	1年	全学科	工業技術基礎／実習 (発想訓練)	知財教育に興味、関心を持たせるために、1年次に標準テキストを活用した座学や発想訓練を通して知財教育の基礎を学び、ひとりでも多く、創造する力を持った生徒を育成する。
		1年	全学科	夏休み課題／ 発明くふう展への出展	
		3年	進学クラス	課題研究／特別支援学校および幼稚園等での出前授業	
		3年	全学科	課題研究／製作実習	
工 25	愛媛県立 新居浜工業 高等学校	1年	全学科	「工業技術基礎」、 講演・課題提出	「工業技術基礎(実教出版)」を活用して知的財産への理解を深めるとともに、知的財産に関する講演を聞いたり、校内アイデアコンテストに参加したりすることで実践力を身に付ける。
		2年	全学科	講演・課題提出	
		3年	全学科	「課題研究」、講演・課題提出	
工 26	愛媛県立 今治工業 高等学校	1年	全学科	工業技術基礎・講演・ 課題提出	生徒自身が産業財産権を侵害せず、自分のアイデアを形にする能力の伸長に努めることができるようになることを目的とし、プレゼンを通して商品化できるようにものづくりをしていくことを目標としている。
		2年	全学科	講演・課題提出	
		3年	全学科	課題研究・授業・講演・ 課題提出	

工 27	福岡県立 香椎工業 高等学校	全	全学科	部活動／作品製作部	<p>・香椎商店街でアンテナショップを開き、生徒実習作品の展示や即売会等をとおしてもものづくりの楽しさや新しい作品のヒント等をもらえる様に準備・実施する。</p>
		2年	機械科	機械選択／総合コース	<p>・知財教育の充実と発展を進めるために「工業技術基礎」「実習」各教科での発想訓練の充実を図り、BS法やKJ法の活用、特許情報プラットフォーム検索の活用・発明に繋がる日々の生活での気づきができる様に する。BS法やKJ法は校内職員研修会でも活用し、1年生での「工業技術基礎」で培った学習内容を、2年生では3学期終わりに行う発想訓練に関わる授業に、3年生で実施する「課題研究」や作品製作部での「ものづくり」「ロボット作り」「知的財産管理検定」に反映できるようにする。</p>
		全	全学科	部活動／作品製作部	<p>・特許取得に関する講演を受けて、3年生については「課題研究」での成果の中から、内容によってはパテントコンテストの応募を目指す。実施の時期や課題を検討して、来年度に繋げる試金石とする。</p>
		3年	機械科	「課題研究」／班別	<p>・特許取得に関する講演を受けて、3年生については「課題研究」での成果の中から、内容によってはパテントコンテストの応募を目指す。実施の時期や課題を検討して、来年度に繋げる試金石とする。</p>

工 28	佐賀県立 有田工業 高等学校	1年	機械科	「工業技術基礎」／一斉	<p>【セラミック科】</p> <p>①佐賀県立宇宙科学館より子供を対象とした遊具「ビーコロ(身近な道具を使ってビー玉を転がすコースを作りビー玉を転がす)」を焼き物を作って欲しいとの依頼があり制作に取りかかった。</p> <p>②ゾートロープの技術を使った焼き物によるアニメーションの作成</p> <p>【機械科】</p> <p>課題研究において地域と連携した製品の設計・製作、アイデアを出し合っ て特許が取得できそうな製品の開発・製作を行う。</p> <p>【電気科】</p> <p>工業技術基礎において意匠の重要性を認識し、意匠の基礎を学ぶ。新しいものを創造しようという気持ちを身に付けさせることを目的とし、紙タワーの製作を計画した。</p> <p>【デザイン科】</p> <p>①製図：意匠について、デザインのプロセス、マーケティング、設計の基礎などの指導を行い、特許庁のWEB教材を視聴し理解を深めた。またユニバーサルデザインについての学習を行った。</p> <p>②プロダクトデザイン：設計と試作モデルの制作についての技術的な指導を行った。</p> <p>③課題研究：地域連携を総合テーマにして、選定した地域から問題点を探し出して、それぞれの解決方法をデザインする準備をおこなった。具体的はフィールドワークが中心で、みかん産地の太良、棚田のある農業地域などを複数回視察した。</p>
		1学	電子機械科	「工業技術基礎」／班別	
		1年	全学科	ホームルーム活動	
		1年	電気科	「工業技術基礎」／一斉	
			工業化学科	「工業技術基礎」／一斉	
			情報技術科	「工業技術基礎」／一斉	
		2年	全学科	ホームルーム活動	

工 29	鹿児島県立 加治木工業 高等学校	1年	建築科	工業技術基礎／一斉授業	1. 産業財産権の基礎を学び、アイデアを創出する柔軟性のある着眼力・発想力・思考力を身につける。併せて、プレゼンテーション能力の基礎を学ぶ。 2. 製作過程をとおして、作り出す楽しさや工夫する上でのひらめきを育成するとともに、特許出願を意識させる。また、各コンテストへの応募を目指す。 3. パテントコンテスト・デザインパテントコンテスト等への応募を目指す。
		1年	工業化学科	工業技術基礎／一斉授業	
		1年	土木科	工業技術基礎／一斉授業	
		1年	電気科	工業技術基礎／班別実習	
		1年	機械科	工業技術基礎／班別実習	
				(公開授業)	
		1年	電子科	工業技術基礎／一斉授業、 班別実習、(公開授業)	
		3年	機械科	課題研究／班別学習	
		3年	電気科	課題研究／班別学習	
		全	ものづくり部	部活動／ ロボット班、マイコンカー班	
工 30	鹿児島県立 隼人工業 高等学校	1年	インテリア科	工業技術基礎	知的創造物具現化のための創造力と技術力の向上
		2年	インテリア科	製図 特別授業	
		2年	インテリア科	実習	
		3年	インテリア科	実習・課題研究	
		全	インテリア科		
			電子機械科		
			情報技術科		
		全	インテリア科	部活動(ものづくり部)	
			電子機械科		
工 31	鹿児島県立 薩南工業 高等学校	1年	情報技術科	工業技術基礎／講義・実習	主体的に自ら考え行動していかなければならない体験的な学習を通して、発想力や創造力を育成すると共に、規範意識や知的財産権の重要性についても理解し、今後の産業界において必要な基礎力を身につけていくこと
		3年	情報技術科	課題研究／実習	

工 32	鹿児島県立 鹿児島工業 高等学校	1年	I 類・II 類	工業技術基礎(授業)	知的財産権の授業を実施し、生徒の興味・関心を高め、知識の習得を目指す。また、部活動では、生徒自らの気づきを掘り起こして知的好奇心をより強く喚起する知財教育を目指す。
		3年	情報技術系	課題研究(授業)	
				部活動(パソコン部)	
				部活動(メカトロ部)	
				部活動(機械部)	
工 33	沖縄県立 宮古工業 高等学校	1年	電気情報科	工業技術基礎／講義形式	校内だけでなく、地域との連携を行うことで知的財産学習を実践的に行う。 全学科で取り組むことで、学校の特色とする。
		3年	電気情報科	課題研究／実習形式	
		3年	自動車機械システム科	課題研究／実習形式 (ロボット)	
		2年	自動車機械システム科	ものづくり部	
		3年	生活情報科	課題研究	

商業高等学校

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
3 展 商 01	岐阜県立 岐阜商業 高等学校	1年	全学科	ビジネス基礎／授業	<ul style="list-style-type: none"> ・専門高校と連携した取組・交流を深め、商品・デザイン開発の研究を深める。 ・株式会社GIFUSHOの校内会社組織の中に知的財産部門を置き、継続可能な知的財産活動を行える体制を整える。 ・企業と協働によるソフトウェア・デザイン開発をとおして知的財産の創造、保護、活用について研究を深めるとともに、指導できる教員を育成する。 ・遠隔地間におけるアイデア創出の各種方法を模索する。
		2年	流通ビジネス科	マーケティング／授業	
		2年	情報処理科	プログラミング／授業	
		2年	情報処理科	ビジネス情報／授業	
		2年	会計システム科	財務会計 I / 授業	
		2年	国際コミュニケーション科	財務会計 I / 授業	
		3年	流通ビジネス科	商品開発／授業	
		3年	情報処理科	総合実践／授業	
		全		LOB部／部活動	

3展 商 02	指宿市立 指宿商業 高等学校	1年	商業科	ビジネス基礎	地域ニーズを把握する農・水産・商 工団体等と連携して、生徒による課 題の探索、探索された課題を解決す る考案・発明・創作等を促し、知財を 活用した課題解決を体験できる教育 活動を展開する。こうした取組の中 から地域発の商品やサービスの展 開に繋げ、「オリジナル商品開発」や 「デザインパテントコンテスト」等の取 り組みによる知的財産権・産業財産 権取得等に展開していく。
		2年		課題研究	
		3年		総合実践	
		3年		課題研究	
		3年		商品開発	
1展 商 01	群馬県立 前橋商業 高等学校	3年	ビジネス総合科	起業実践 / 授業	商業高校で学んだ知識をもとに、新 ビジネスの提案、新商品の開発を行 い、外部に発表する。優れた企画を することにより生きた知的財産権を 学んでいく。
商 01	群馬県立 高崎商業 高等学校	3年	流通ビジネス科	商品開発／授業	知的財産に関する基礎的・基本的な 知識と技術を身に付けさせながら、 無から有を生み出す創造的な活動 を通して、知的財産を創造、保護、活 用していくことができる人材を育成す る。また、将来において自ら課題を発 見し解決することができる能力と態 度を持った人材を育成する。
		3年	全科	課題研究(調査・研究)／ 授業	
		全学年	全科	ビジネス研究部／部活動	
商 02	神奈川県立 商工高等 学校	3年	総合ビジネス科	課題研究 知財教育選択者	商業と工業の連携により、オリジナ ル商品を企画・立案し製作する
		3年	総合技術科	海内研究 知財教育選択者	
商 03	長野県 丸子修学館 高等学校	3年	総合学科	マーケティング	・総合学科キャリア教育に知財学習 を導入し、様々な開発・貢献・連携活 動をより活性化する。
		全	〃	食品製造・美術部	・産業社会における人間力を養う。
		全	〃	SHR・LHR	・総合学科の各分野で協働・連携し た商品開発や知財学習が実践でき るように指導体制を整える。

商 04	長野県飯田 OIDE長姫 高等学校	2年	商業科	科目「広告と販売促進」	Uターン、Iターン人口を増やすための第一段階として飯田の魅力の情報発信を行う
		3年	商業科	科目「広告と販売促進」	
		3年	商業科	科目「課題研究」	
商 05	静岡県立 沼津商業 高等学校	3年	総合ビジネス科 経営コース	課題研究／授業	地域の特産物を使用した商品を地域の企業と共に開発。また本校のキャラクターデザインを制作し、それぞれに次の段階として知財(商標)について学習する。
		3年	情報ビジネス科 マルチメディアコース	情報コンテンツ実習／授業	
商 06	石川県立 大聖寺実業 高等学校	1年	情報ビジネス科	特別活動	知的財産を学習することにより、知的財産に関する理解を深めるとともに、地域の企業と連携した商品開発やものづくりの場を経験し、創造性や実践的な能力を身につける。
		2年	情報ビジネス科	商品開発	
		3年	情報ビジネス科	課題研究グループ	
商 07	愛知県立 知立高等 学校	1年	商業・情報処理科	ビジネス基礎	1年生では壁新聞コンテストへの応募で、経済、ビジネス、法律に関する世の中の出来事に関心を持たせる。
		2年	商業・情報処理科	マーケティング(選択科目)	2年生ではデザインパテントコンテスト応募に向けての取り組みをし、入賞を目指す。
		3年	商業・情報処理科	経済活動と法	3年生では裁判員裁判の傍聴や模擬裁判を通して規範意識を養う。
商 08	兵庫県立 松陽高等 学校	2年	商業科	商品開発	地域の諸団体や地元企業と協力し、商品開発を実施。
		3年	商業科	課題研究	
		3年	商業科	経済活動と法	
商 09	兵庫県立 長田商業 高等学校	3年	商業科	課題研究	知財の基礎を学習し、知的財産権を取得する実践力を身につける。スクールキャラクターに関連した商品開発を行う。開発した商品の知的財産権の模倣的な出願書類を作成する。
		4年		総合実践	
商 10	兵庫県立 洲本実業 高等学校	全	工業科/機械科	特別活動	校内に知的財産を推進する体制をつくり、その体制のもと、生徒の知的財産権に対する関心度を高め、多くの企業や有識者からの講義などで意識を高めたい。デザインやロゴなどのコンテストを全校生より募集し積極的な展開を進め創造力や実践力を育成する。
			電気科/商業科		
			国際ビジネス科		

商 11	岡山県立 岡山東商業 高等学校	3年	ビジネス創造科	商品開発	地域連携をとおして知的財産権を活用することによって、錆びれた商店街の活性化や地元企業との連携でにぎわいのある街をデザインする
		3年	情報ビジネス科	広告と販売促進	
		全			
商 12	瓊浦 高等学校	1～3年	情報ビジネス科	3年 商品開発／通常授業 総合実践／通常授業	商品開発等の創造的・実践的な活動を通して知的財産に関する基礎的な理解と知財マインド(創造の意欲や創作を大切にすするマインド)を醸成する。
				2年 ビジネス実務／通常授業	
				1年 ビジネス基礎／通常授業	
商 13	出水市立 出水商業 高等学校	1年	商業科	「マーケティング」／ 知的財産の基礎	今年度は、学校全体で知的財産教育の浸透・定着に取り組む。特に、1年「マーケティング」や2年「商品開発」・3年「広告と販売」3年「課題研究(調査研究・作品制作)」を活用して、学年進行で知的財産教育を進める。また外部との連携や講演会・学習会を実施し、「活きた学習」を生徒に体験させることで、今後の学習に繋げる。
		1年	全クラス	「ビジネス基礎」／ 知的財産の理解	
		2年	商業科	「商品開発」	
		3年	商業科	「広告と販売促進」	
		3年	商業科	「課題研究」／	
			情報処理科	「調査研究」「作品制作」	
			商業科	調査研究同好会／ 調査研究・地域貢献活動・ 商品開発等	
全		全校生徒／知的財産 講演会等			
商 14	鹿児島県立 串良商業 高等学校	全	両学科	LHR	○地域企業や小・中学校と連携し知的財産教育を実践し、人材の育成を図る。
		3年	両学科	課題研究／選択	
		3年	両学科	商品開発／選択	
		3年	情報処理科	マーケティング／選択	
		3年	情報処理科	電子商取引／選択	
		3年	総合ビジネス科	経済活動と法／クラス	
		3年	総合ビジネス科	広告と販売促進／選択	○各種コンテストに応募してアイデアを生み出すきっかけ作りをする。
		2年	総合ビジネス科	課題研究／クラス	
		2年	総合ビジネス科	マーケティング／クラス	
		2年	情報処理科	プログラミング／クラス	
		1年	両学科	ビジネス基礎／クラス	
		1年	両学科	情報処理／クラス	

商 15	霧島市立 国分中央 高等学校	3年	ビジネス情報科	課題研究 / 商品開発 楽天IT学校への参加 学校PRサイト作成 文化祭でのチャレンジショッ プ運営 おもてなし実習	学校の特性を生かした中での地域 連携・情報発信といった取組を発展 させ、知的財産を活用し創造力、実 践力、活用力を育成する
		2年	ビジネス情報科	選択Ⅱ / 広告と販売促進 統計グラフによる分析方法の 学習 ----- 選択Ⅰ / 電子商取引 パソコンソフトを用いた販売 の基礎学習	
		全	ビジネス情報科	----- 校内知的財産合同LHR等	
			園芸工学科		
スポーツ健康科					
生活文化科					
商 16	鹿児島県立 屋久島 高等学校	1～3年	情報ビジネス科	課題研究／座学, 実習	学習する過程で創造力や、プレゼン テーション能力を高め、将来産業界 で活躍できる人材を育成する。離島 のため情報不足になりがちなところ を、外部講師の活用や研修会報告 会の場での積極的な情報交換で補う ようにする。
				商品開発／座学, 実習	
				広告と販売促進／ 座学, 実習	
				マーケティング／座学, レポ ート	
				その他商業に関する専門科 目全般	

商 17	鹿児島県立 奄美高等 学校	3年	情報処理科・ 商業科	課題研究／講演会	地方創生を担う人材育成を推進するため各学科で以下の目的・目標を設定した。●商業科は、前年度の取組で誕生したプライベートブランド「スウィートネスハイスクール」の新商品開発を地元企業と連携して行い、地場産業ならびに商標権および意匠権についての理解を深める。また、企画商品と合わせて奄美大島の各地でPR活動を行う。●情報処理科は、「スウィートネスハイスクール」ブランディングのためのコンテンツを制作し、各地で実施するPR活動やSNSによる情報発信に活用する。同時に、本校「創立100周年記念黒糖焼酎デザインラベル」の制作を通じて、商標権と奄美地場(黒糖)産業の理解を深める。●機械電気科は、取組から生まれた技術をパテントコンテストに応募し、特許権の理解を深める。
		3年	情報処理科	総合実践／授業(講義,演習,発表会)	
		3年	商業科	総合実践／授業(講義,演習,発表会)	
		3年	情報処理科・ 商業科	課題研究／授業・部活動	
		2・3年	機械電気科	課題研究／授業・部活動	
		2年	情報処理科・ 商業科	情報処理／授業(講義,演習,発表会)	
		1年生	情報処理科・ 商業科	ビジネス基礎／授業(講義,演習)	

農業高等学校

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
3展 農 01	岐阜県立 大垣養老 高等学校	1～3年	食品科学科	食品流通・総合実習・ 課題研究 ※中心は2,3年 「食品流通・課題研究」40名	〔1〕知的財産教育と専門教育の融合を図り、系統的に学習できる体制とシステムを構築し、定着を確実なものにする。特に従来から取り組む食品科学科だけでなく、他学科への知的財産教育の導入と定着を進める。 〔2〕校内だけでなく地域・企業と連携した知的財産学習の実践をスムーズに進められるよう、体制の充実を図る。 〔3〕本校だけでなく他校の指導者・生徒間とも情報交換や研修を通して知財教育の効果を高められるよう、ネットワーク作りと充実を図る。
		1～3年	生産科学科 環境園芸科	総合実習,課題研究	
		1～3年	総合学科	マーケティング,商品開発, 課題研究,商業クラブ活動 ※中心は商業科の3系列 選択生	

3 展 農 02	大阪府立 農芸高等 学校	1年	ハイテク農芸科・ 食品加工科	農業と環境	1.知財学習の効果の地域への広が り 2. 知財学習を通じた学校力向上 3. 生徒のやる気向上 4. 農業の6次産業化に向けての位 置づけ
		1～3年	ハイテク農芸科	総合実習	
		2年	ハイテク農芸科	園芸流通	
		3年	食品加工科	食品衛生	
		1～3年	食品加工科	総合実習	
		1～3年	資源動物科	総合実習	
		2～3年	全学科	課題研究	
		2～3年	全学科	クラブ活動(農業クラブ)	
		1～3年	全学科	知財開発研究同好会	
2 展 農 01	岐阜県立 岐阜農林 高等学校	2・3年	流通科学科	課題研究	①学科間連携プロジェクトの推進② 5学科特色あるプロジェクトの展開③ 外部連携による知財及び知財権学 習の推進④高大連携の推進
		1～3年	園芸科学科	農業と環境 課題研究	
		2・3年	動物科学科	課題研究	
		2年	森林科学科	課題研究	
		2・3年	環境科学科	課題研究	
		1～3年	食品科学科	農業と環境 課題研究	
		2年	生物工学科	課題研究	
2 展 農 02	熊本県立 南稜高等 学校	1～3年	生産科学科	「課題研究」/班別学習	・教材開発及び指導マニュアルの作 成・校内知的財産学習のボトムアッ プ ・各学科専門教科へ知的財産学習 の定着化 ・知的財産学習をととした生徒のリ ーダー育成 ・実践的な知的財産学習の検討、実 施
				「作物・畜産」/座学、実習	
				「総合実習」/座学、実習	
		1～3年	園芸科学科	「野菜」「草花」/座学、実習	
				「総合実習」/座学、実習	
		1～3年	環境工学科	「水循環」/座学、実習	
		1～3年	食品科学科	「課題研究」/班別学習	
				「食品製造」/座学、実習	
1～3年	生活経営科	「生活と福祉」/座学、実習			
		「リビングデザイン」			
1～3年	普通科総合 コース	「クリエイト」/実習			

農 01	宮城県立 農業高等 学校	3年	食品化学科	「食品製造」	県内の伝統野菜の栽培から新しい 商品開発、流通販売、食育推進を目 指して、産学官民連携で、地域を活 性化させていく。
		3年	生活科	「総合実習」	
		3年	食品化学科	「課題研究」	
		2年	食品化学科	「食品製造」	
		2年	生活科	「総合実習」	
		1年	食品化学科	「食品製造」	
		1年	生活科	「総合実習」	
農 02	山形県立 上山明新館 高等学校	1～3年	食料生産科	総合実習・課題研究	商品開発を通して、知的財産につい ての理解を深める
農 03	長野県 佐久平 総合技術 高等学校	1年	農業科(くくり)	産業基礎 /学年一斉・ HR 別	異なる学科間において、共通した知 財学習を取り入れ、生徒の創意工夫 の意識や知的好奇心を喚起するとと もに、学科の「連携・協働」による発 展的な展開を模索し、専門高校生の 知的創造力が地域産業の活性化や 地域課題の解決に結びつくような研 究活動やものづくりに取り組む。
			機械システム科		
			電気情報科		
		2年	栽培システム科	環境地域基礎 /HR 別	
			生物サイエンス科		
			食品サービス科		
			機械システム科		
		3年	電気情報科	課題研究 /コース別	
			栽培システム科		
			生物サイエンス科		
			食品サービス科		
		有志	チャレンジショップ部	放課後・休日の部活動	
		農 04	岐阜県立郡 上高等学校	1年	
2年	食品流通科			課題研究	
3年	食品流通科			課題研究・食品流通	

農 05	愛知県立 佐屋高等 学校	3年	生物生産科	総合実習	校内に知財学習を推進する体制を構築することで、これまで積み上げてきた活動を広く知ってもらおうと同時に発展させる。生徒の知財に対する関心度を上げ、地域と連携し、コンテストへの参加やハスの多様な活用方法の提案、海抜ゼロメートル地帯の魅力を生かした新しい文化の創造を目指す。
		1～3年	科学部	部活動	
		2～3年	家庭クラブ	家庭クラブ執行部	
		2～3年	農業クラブ	農業クラブ執行部	
農 06	大阪府立 枚岡樟風 高等学校	1年	地域文化系列	地域文化系列内授業 地域貢献部	本校の総合学科の特徴でもある7つの専門系列の学習内容から知的財産を創出し、地域の活性化を目標とする
		3年	工業デザイン 系列	工業デザイン系列内授業	
		3年	農と自然系列	農と自然系列内授業	
		3年	情報系列	情報系列内授業	
農 07	奈良県立 磯城野 高等学校	1. 2年	バイオ技術科	食品製造	・磯城野高校で栽培している大和野菜を使った新商品の開発 ・開発した商品を磯城野商品としてのブランド化
農 08	鹿児島県立 鶴翔高等 学校	1年	農業科学科	「農業と環境」 授業	農業に関する実習と関連づけた知的財産に関する教育を行うことによって、生徒の専門性を高める。
		1年	食品技術科	「農業と環境」 授業	
		2～3年	農業科学・ 食品技術	「生物活用」 授業	
		3年	農業科学科	「課題研究」 授業・実習	
		3年	食品技術科	「課題研究」 授業・実習	
		1～3年		「食農研究部」 部活動	
農 09	鹿児島県立 伊佐農林 高等学校	全	農林技術科	農業と環境／一斉授業	研修や講演会の機会をさらに活用して、多くの生徒および教職員の知的財産に関する意識を高める。
				課題研究／専攻班ごとの 実習	

農 10	鹿児島県立 鹿屋農業 高等学校	3年	農業科	農業経営／座学	①「授業における知的財産学習の展開」と、 ②「知的財産学習を踏まえた上での専攻班学習の深化」に取り組み、学科内での共通理解の促進と実践を図り、学習方法や運営方法を確立したい。
		3年	農業科	課題研究・農業クラブ／実習	
		2年	農業科	農業クラブ／実習	
		2年	農業科	農業経営／座学	
		1年	農業科	農業と環境／座学	
農 11	鹿児島県立 徳之島 高等学校	1年	総合学科	産社と人間	知的財産についての学習を通して、生徒が興味・関心を高め主体的に取り組むことで、地域との連携を活発にし、地域活性化に寄与したい。
		2年	総合学科 生物 生産系列	課研・総実・農業と環境	
		3年	総合学科	課研・総実・食品製造	
		2年	総合学科(生物 生産・情報系列)	農業と環境・ビジネス基礎	

水産高等学校

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
3展 水 01	宮城県水産 高等学校	1年	海洋総合科	水産海洋基礎／実習	①全校生徒を対象に、発想訓練を実施し「考えること、創造すること」のハードルを下げる。 ②各科目で知財に触れる学習を展開し産業や生活の中の知財を身近なものにする。 ③先行して学習しているコース(学科・類型)、および部活動では一歩掘り下げ、ものづくりや商品開発に挑戦する。
		1年	海洋総合科	水産海洋情報技術／座・実	
		2・3年	フードビジネス類型	商品開発と知的財産／座 (学校設定科目:教科水産)	
		2・3年	調理類型	調理理論／座	
		2・3年	フードビジネス類型	総合実習	
		2・3年	生物環境類型	総合実習	
		2・3年	調理類型	総合実習	
		3年	海洋総合科	課題研究	
		全	増殖研究部	部活動	
		全	情報無線研究部	部活動	
		全	調理研究部	部活動	
全	全校	行事			

2 展 水 01	愛媛県立 宇和島水産 高等学校	1年	水産食品科	水産海洋基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の知財学習体制の強化 ・校内の学科間連携の強化 ・他校種との連携による幅の広い 考え方ができる人間の育成 ・知財マインドを生かした産学官連携
		2年	水産食品科	食品製造	
		3年	海洋技術科	課題研究	
		3年	水産増殖科	課題研究	
		3年	水産食品科	課題研究	
		特活	水産増殖研究部	部活動	
		特活	水産食品研究部	部活動	
		全学年	水産クラブ	課外活動	
水 01	秋田県立 男鹿海洋 高等学校	3年	海洋・食品科学	課題研究・総合実習/ 制作・研究	<ul style="list-style-type: none"> ・知的財産権の学習体制の構築 ・ものづくりを通じて知的財産権を学 び、地域に必要とされる製品の開発 を目指す
		2年	食品科学	水産流通・総合実習/講義・演習	
		2年	普通	課題研究(家庭)/講義・演習	
		1年	海洋・食品科学	水産海洋基礎/講義	
		2・3年	水産クラブ・ 家庭クラブ	部活動/制作・研究	
		全	全学科	学校行事/成果発表会	
水 02	大分県立津 久見高等 学校 海洋科学校	3年	海洋	課題研究/実習 総合実習/実習 水産流通/座学	<ul style="list-style-type: none"> ○水産業振興につながる知的財産 権について学ぶ ○地域と連携した発案、開発等の実 践を通じた地域振興をめざす ○6次産業化に対応できる職業人と して必要な知的財産に関する知識を 深める
		2年	海洋	課題研究/実習 総合実習/実習 水産流通/座学	
		1年	海洋	海洋情報技術/実習 水産海洋基礎/実習	
		3年	海洋科栽培 工学コース	総合実習, ダイビング, 課題研究	
		2年	海洋科栽培 工学コース	総合実習, ダイビング	
		1年	海洋科 食品工学科	水産海洋基礎	
水 03	鹿児島県立 鹿児島水産 高等学校	3年	海洋科栽培 工学コース	総合実習, ダイビング, 課題研究	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培工学コース2, 3年生は, 平成 27 年度に続き, チョウザメをはじめと する魚類を継続飼育する技術を確立 し, その過程における製作物やアイ デアに対して発生する産業財産権, すなわち特許権や実用新案, 意匠 権, 商標権について理解と学習を深 めることを目的とする。 ・1 年生は, この学習を全学科で取り 組むための第 1 段階として, これまで の経緯も含めて知的財産権の基本 について学習する。
		2年	海洋科栽培 工学コース	総合実習, ダイビング	
		1年	海洋科 食品工学科	水産海洋基礎	

高等専門学校

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
3 展 専 01	鈴鹿工業 高等専門 学校	1年	全学科	校内パテコン応募用紙配布	本校において長年蓄積された教育資 材と三重県全域にわたる産学官連 携による地域企業との関わり、鈴鹿 少年少女発明クラブなど、地元の人 材育成プログラムや、高専間ネットワ ークを生かしながら、高専生が、地域 の抱える課題にアイデアで挑み、解 決する過程の中で地域産業を理解 し、未来を担う産業人材へと成長して いくことを目的とする。
			全学科	情報処理Ⅰ/演習	
			機械工学科	機械工学科序論/講義	
			電気電子工学科	電気電子工学概論/講義	
		2年	全学科	情報処理Ⅱ/演習	
			機械工学科	機械工作実習/演習	
			電気電子工学科	ものづくり実習/演習	
		3年	全学科	特別活動/講演	
			機械工学科	メカトロニクス/講義	
			電気電子工学科	電子制御基礎/講義 電子回路/講義	
		4年	全学科	法学Ⅱ/講義	
			電気電子工学科	デジタル回路/講義	
		3年	材料工学科	電気化学/講義	
		専攻科 1年	全専攻	先端技術特論/演習	
			電子機械工学 専攻	制御機器工学/講義	
専攻科 2年	全専攻	生産設計工学/講義			
	全専攻	センサ工学/講義			

2 展 専 01	香川高等 専門学校	本科 1年	全学科(電子システム工学科・情報工学科・通信ネットワーク工学科)	創造実験・実習/実験	高専一貫教育の特徴を生かし、知財を創出する技術者の育成を目標とする
		本科 2年	電子システム工学科	基礎工学実験・実習/実験	
		本科 3年	電子システム工学科	基礎工学実験/実験	
		本科 4年	全学科	セミナー	
		本科 4年 5年	全学科	特別講義 I 特別講義「知的財産の基礎から応用」/講義	
		本科 4年 5年	全学科	特別講義 II 「知的財産管理技能士国家試験対策」/講義	
		本科 5年	全学科	卒業研究/実験	
		専攻科 1年,2年	電子情報通信工学専攻	特別研究/実験	
		専攻科 1年,2年	電子情報通信工学専攻	特別研究/実験	
		専攻科 1年	電子情報通信工学専攻	知的財産権/講義	
		本科 1年～ 専攻科 2年	全学科	課外活動/愛好会、ロボコン	
		1 展 専 01	北九州工業 高等専門 学校	5年	
希望者	全学科			パテントコンテスト参加	
4年	機械工学科			機械工学実験 I	
希望者	全学科			デザコン参加	
5年	機械工学科			メカトロニクス工学	
専2年, 5年	全学科			知財セミナー	

1 展 専 02	都城工業 高等専門 学校	1年	全学科	総合社会 I	知財教育の学内での再体系化と定着を計る
		2年	全学科	特別授業	
		4年	全学科	特別活動(研究発表)	
		5年	全学科	産業財産権	
専 01	サレジオ工業 高等専門 学校	本科1 ～4年	全学科	知的財産の教育／希望者	知的財産に関する専門家の力を、本学の問題解決能力育成教育に導入することで、TRIZ にあるように「既に存在する知識」を認識しながらアイデアを洗練する教育へと昇華させ、イノベーションを推し進める力を養う教育への礎を作る
		本科1 ～4年	全学科	パテコンチャレンジ／希望者	
専 02	沼津工業 高等専門 学校	全	全 5 学科	特別同好会「知財 TKY(寺子屋)」	知的財産マインド(創造)の育成として、低学年の知財学習への関心を高める。起業マインド(保護・活用)の育成として、高学年の地域特性の理解、課題解決能力を高める。
		全	全 5 学年	「知財セミナー」日本弁理士会	
		2年	全 5 学科	「ミニ研究」	
		2年	機械工学科	電気工学/講義	
		3年	電気電子工学科	電気電子計測/講義	
		4年	全 5 学科	「社会と工学」	
		4年	全 5 学科	「知財セミナー」	
		5年	電気電子工学	電力工学/講義	
専科1年	全 3 コース	「知財セミナー」			
専 03	福井工業 高等専門 学校	1年 (全体)	全学科(機械, 電気電子, 電子情報, 物質, 環境都市)	「知財とお金」/講演会	1)全学科1年生/4年生/専攻科生には知財講演会を行い、『知財に興味を持たせる/特許と様々な知財(産業財産権・著作権など)について認識を深め、分別を持たせる』、および、『研究開発における特許の重要性についての認識を深める』という、各学年の実情に合った認識を持った状態とすることを目標とする。2)2～4年生で実施する創生系演習(ものづくり演習)にて、「学生の製作物など身近な物を例にした知財への認識を高める講習会を実施し、特許への理解を深める」というカリキュラムを実施することにより、自らのアイデアの特許性を見出す能力、ものづくりコンテスト等でアイデアを実現することを目標とする。
		4年 (全体)	全学科	「知的財産の基礎とその上手な活用法」/講演会	
		専攻科 1年 (全体)	生産システム, 環境システム	「知的財産権の概要及び知的財産管理」/講演会	
		4年	機械, 電子情報, 物質, 環境都市	知能機械演習, ソフトウェア工学, 物質工学実験Ⅲ, 設計製図演習Ⅲ/創生系授業	
		2年	電気電子	電気電子工学実験Ⅰ/創生系授業	
		3年	電気電子	電気回路Ⅱ/講義と演習	
		5年	電気電子	技術者基礎/講義と演習	

専 04	奈良工業 高等専門 学校	1～3年	電子制御工学科	基礎工学実験／実験 ----- 電気工学実験／実験 ----- 電子制御工学実験／実験	本校の電子制御工学科で行っている ロボット教材を用いた課題解決型学 習(PBL)教育へ知的財産学習を導 入することにより、PBL 教育と本学習 とを連携させることで、学生の知的財 産に対する興味を喚起し、知的財産 権に対する知識、重要性を効果的に 学習させることを目的とする。
専 05	和歌山工業 高等専門 学校	1・3年 ----- 1～3年	知能機械工学科・ 電気情報工学科・ 物質工学科・環境 都市工学科	知的財産権の授業 ----- 総合美術同好会 部活動	これまでの取り組みである本科5年 生対象の知的財産権の授業(選択科 目)から、究極的に全学年を対象に すべく、平成28年度では、一昨年度 からの総合美術同好会の活動に加 えて、低学年(1年生から3年生)の 指導を知的財産教育の活動の中核 として位置づけ、とりわけ、専門科目 の研究が本格的に始まる本科3年 生を対象に知財への関心を喚起し、 アイデアを創出し、形に変えることを 目標とした。引き続きデザインパテ ントコンテストへできる限り多くの学生 が応募することも目的とした。
専 06	呉工業 高等専門 学校	全学年	全学科	インキュベーションワーク/課 題発見型創造演習科目 ----- J-Plat Pat 利用方法の習得 ----- 学内アイデアコンテスト	本科全学生を対象として、知財教育 の基礎の学習、インキュベーションワ ークによる課題発見・解決学習、学 内アイデアコンテストなどを通じ、知 財創生教育の向上を目指す